

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2870200850		
法人名	株式会社神戸介護ケアウイング		
事業所名	グループホームケアウイング六甲		
所在地	(〒 657-0031) 兵庫県神戸市灘区大和町4丁目5-25		
	電話	078-821-4865	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】 [平成19年7月15日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	19人	(常勤9人) (非常勤10人)	/ 常勤換算14.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上3階建て建物の 2階～3階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000円	その他の経費(月額)	30,500円	
敷金の有・無	有り ( 円) ・ (無し)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り)(400,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し	
食材料費	朝食	200円	昼食	450円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成19年7月15日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性3名) (女性15名)		
要介護1	11名	要介護2	5名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85.2歳 … (最低75歳) (最高96歳)		

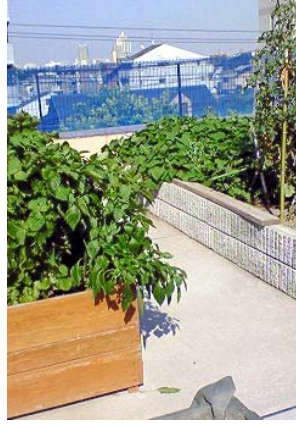
(5) 協力医療機関

協力医療機関名	都診療所	西病院	矢野歯科
---------	------	-----	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに商店が建ち並び、ホーム裏側の神社や公園は散歩コースになるなど、日常生活に便利な環境にある。1階はデイサービスフロアになっており、曜日を決めて「朝喫茶」も開いている。居室は和室タイプ・洋室タイプの選択が可能で、リビングも、2階を洋風・3階を和風としている。「遊化三昧」を理念に掲げ、人として思いのままにふるまうて欲しいという考えのもと、利用者の個性に合わせた役割を提供できるよう、様々な活動を生活に取り入れている。また、ホームの代表者は、30年のキャリアを持つ歯科技工士で、『食べる楽しみ』を大切に、ホーム内に歯科診療台を置き、歯科衛生士も常駐するなど、口腔ケアにも注力している。ホームで飼う犬も、セラピードッグとして入居者の心を潤わせている。◎添付の資料写真も参照

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①契約書類が分りやすくなった。②介護計画が家族等に伝わるようになった。③緊急時の手当について、消防署が毎月開催する講習を職員が順番に受講している。④事故報告書と「ひやり・はっと報告書」を分け、ひやり・はっと事例が出やすくなった。⑤苦情受付窓口として「行政機関窓口」を重要事項説明書に記載した。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価をひとつの研修材料と考えており、各職員がこれを行なったうえで、管理者が集約した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議には、民生委員や地域包括支援センター職員のほか、事業主体である「神戸介護ケアウイング」から地域広報担当者や地域住民担当者も出席し、ホームの状況報告とともに、意見交換を行ない、これをホーム運営に活かしている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族や親戚、知人など、ホーム外の方々との係わりも多く(また、そのように心掛けており)、それらの方々からの意見や要望は、必ず、定例会議やフロア会議で議題にし、サービスの改善に役立てている。職員配置を「利用者ごとに担当制」とすることで、利用者の状態について家族との連絡は密に取っている。家族会は年2回開催しており、1階受付には「ご意見箱」も設置している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ホーム1階で開かれている「朝喫茶」のマスターを地域の自治会副会長が務め、また、自治会の会合場所としてホームを提供するなど、地域住民との付き合いは深まってきている。ボランティアの受け入れ、民生委員の見学、「トライやるウィーク」の受け入れ、老人会への訪問、保育所との交流など地域との連携は進んでいる。地元中学校の体育祭や音楽会の誘いもあり、世代を超えた交流ができています。



▲ 屋上



▲ 見守りの工夫（暖簾に鈴を付ける）



▲ 歯科診察台も設置



▲ 風呂



▲ 菜園の収穫物とその料理（職員との協働）



▲ 地域交流・親しみの工夫（外部の方にも分かりやすい表示）



▲ セラピードッグの『いちご』（事業主体＝「神戸介護ケアウイング」はセラピードッグの支援活動にも参画）



## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「遊化三昧」を理念に掲げ、人として自由にふるまっ て欲しいという考えのもと支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	経営者をはじめ全職員が理念を共有し、運営ができ よう、人材育成研修に力を入れ、コンプライアンス を高めている。また、朝礼や会議においても、日々そ の徹底を図り、利用者や家族にはそれらの実践から ホーム理念を伝えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム1階で開かれている「朝喫茶」のマスターを地 域の自治会副会長が務め、また、自治会の会合場 所としてホームを提供するなど、地域住民との付き合 いが深まってきている。ボランティアの受け入れ、民 生委員の見学、「トライやるウィーク」の受け入れ、老 人会への訪問、保育所との交流など住民とのおつき あいが実践できている。	○	積極的な地域活動により、地元中学校の体育祭や 音楽会への誘いもあるなど、世代を超えた交流があ る。この活動が継続し、さらなる広がりをみせること を大いに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三 者評価を実施する意義を理解し、評価を活かし て具体的な改善に取り組んでいる	法人の人材育成教育によって、第三者評価の意義 について全職員に周知されており、定例会議やフロ ア会議において、検討・改善できている。評価結果に ついては家族等に対して伝えられている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、民生委員、地域包括支援センター職員や、ホーム側から地域広報担当者、地域住民担当者も出席のもと、ホームの状況報告、意見交換を行ない、それらをホーム運営に活かしている。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する説明会や連絡会議に積極的に参加し、情報の収集や交換を行なっている。	○	グループホーム連絡協議会の発足や定期連絡会の開催など、ホーム運営者が集まる機会を設けてもらえるよう、市町に対しても働きかけてもらいたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、利用者ごとの担当制とし、利用者の状態などについて家族との連絡を密に取っている。ホーム通信「日々是好日」を定期的に発行し、写真を中心に利用者の様子をはじめ、職員の異動や入れ替わりについても紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や親戚、知人等の面会も多く、外部者との係わりも多く持っており、それらの方々から意見を聴きやすい環境ができています。意見や要望は、必ず定例会議やフロア会議で議題に挙げ、改善に活かす取り組みをしている。家族会を年2回開催し、1階受付には「ご意見箱」を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は少なく、常に管理者・リーダー・職員間でコミュニケーションを密に図っている。職員配置は性別・年齢・特性等を考慮し、バランスを考えた配置をしている。併設するデイサービス職員も含め、各フロアの交流を図ることにより、馴染みの職員と利用者の関係が増え、誰もが対応できるような取り組みをしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営指針書の人材育成マニュアルに基づき、OJTがなされている。業務に係わる行政主催研修や人材育成勉強会を随時開催し、特に口腔ケア実地研修に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では、地域運営推進会議の後に、地域包括支援センターの担当者との情報交換程度に留まっているが、他事業所の見学機会を設けたり、他事業所からの見学を受け入れるなどの相互交流を検討している。	○	グループホーム連絡協議会の発足や定期連絡会の開催など、ホーム運営者が集まれる機会を設けてもらえるよう、行政その他の関係者に働きかけてほしい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、複数回の見学や他利用者との交流を目的として、数時間一緒に過したり、昼食を共にする場面(日帰り体験)を設定している。	○	日帰り体験だけでなく、夜から朝にかけての状態を把握する意味も含めて、数日間の体験入居制度等も検討してはどうか。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日課である買物や犬の散歩、野菜の収穫などは職員と協働し、お茶・お花・調理・園芸などの利用者が持っている専門的な知識や技術をうまく引き出し、その人の出番を作っている。利用者は家族の一員として様々な事を皆で一緒に行ない、日々、喜怒哀楽を共有している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向のみならず、実際に生活する上での苦情や不満も聴き、ケアに活かしている。本人の意志表示が困難な場合も、家族や職員の意見を十分に検討し、利用者本位のケアを行なっている。家族の方にも協力依頼し、利用者の馴染みの家や思い出の場所に外泊や外出をする機会を設けている。	○	利用者の馴染みの家や思い出の場所への外出について、その機会を増やすようにしてほしい。
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえつつ、各職員の意見、医師の意見など様々な観点からの情報を基に、ケアプラン会議を開き、意見を出し合い、十分に検討したうえで、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送りノートを活用することで日々の利用者の状況や変化を詳細に把握しており、定期的には3～6カ月に1回、特別な変化が生じた場合にはその都度、介護計画を見直し、家族等に説明を行ない、同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスで行なっているカラオケ、パンフラワー教室、編み物教室などに一緒に参加している。「朝喫茶」には日常的に顔を出している。神戸東部NPOサービスセンターの会員でもあり、会員間ネットワークを活用し、他事業所のサービスを受ける支援も行なっている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師による定期往診が週に1回あり、それぞれの利用者に応じた医療を受けられるよう助言してもらっている。併設するデイサービスや訪問看護の看護師によってケアの方法やその他の助言を受けており、これが家族等に与える安心感は大きい。	○	現在の医療関係体制を信頼している家族が多く、この体制を維持していただけることを願います。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予想される場合、家族、職員、医師等の関係者が集まり、今後のケア方針について会議を持った錠うで、ケア方針を決定している。今までに2名の利用者について看取りまで支援した実績がある。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応については経営指針書に理念として掲げられ、各職員は利用者一人ひとりの個性を把握し、できるだけ利用者のペースに合わせた対応をしている。職員は個人情報施設外に漏れることのないよう施設として徹底管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの個性を把握し、それに合った生活リズムが築けるように支援している。信頼関係のある職員とマンツーマンで、本人の落ち着ける環境の中で思いを引き出し、利用者の自己決定に沿った生活を送れるように支援している。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や調理、味付けなどは職員と利用者が協働し、一緒にテーブルを囲みながらコミュニケーションを図っている。食べにくいものについては、代替品を提供する工夫が見られる。食器は利用者の馴染みの食器を持ってきて使用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本とし、利用者自身の希望の曜日や時間帯に入浴している。大きくは日中希望と夜間希望とに分かれるが、一日2回入浴している利用者もいる。同性介護を基本に、浴室には簡単な鍵を取り付けて安心感を持ってもらうなど、プライバシーにも配慮が見られる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれに掃除や料理、洗濯などの日常生活の役割がある。園芸、セラピー犬との触れ合い、各種ボランティア、地域の保育所や小中学校、神社、自治会、老人会などとの交流もあり、日常を楽しく暮らすための数多くの選択肢が提供されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、買物や散歩に行ったり、地域行事にも参加している。芋掘りや花見、花火大会、遠足などの季節行事を法人で行なっている。買物等で地域の商店を訪れる機会も多い。今後は、外食などで地域の飲食店などの利用機会を増やしていくことを検討している。	○	4階屋上は多機能な利用ができるように家庭菜園、物干し場、園芸、水まき、散歩など「個」に合わせた活動空間としている。身近な戸外として、今後も十分に活用して欲しい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則として玄関やフロアは施錠せず、1階から屋上まで希望に応じて移動できる空間を作っている。いつでも誰でもが気軽に訪問できるようにしており、訪問者が各利用者の個室でくつろぐための備品も用意している。暖簾に「鈴」を縫いつける等、見守りの工夫もみられる。		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防避難訓練を実施している。救急インストラクター資格を持つ職員もいる。全職員が市民救命士資格を取得出来るようにサポートもしている。災害対応マニュアルも完備され、これらホームにおける緊急時対策は進んでおり、安心できる。	○	近隣で火災が発生したときの対応方法や、自力歩行が難しい利用者の誘導方法などについて、近隣住民の協力を得られるよう、万全を期すための地域への働きかけを続けてもらいたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食習慣は、利用者それぞれに異なる為、全員一律にするのではなく、個々に応じた形で提供している。食事摂取量は毎日チェックし、状態変化の早期発見に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム入口には花壇と植木鉢、玄関には季節に応じた生花を利用者と共に生けている。2階のリビングは洋風、3階は和風になっている。季節ごとに壁の飾り付けを変え、照明は天候や時間帯によって使い分けるなど、過しやすい空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具や物品は、すべて自宅で使い慣れた物を持ってきてもらい、在宅での生活環境に近い空間を再現している。また、それらの居室空間を演出するために、家族、入居者、職員が協力している。		

※  は、重点項目。